社会・地理歴史・公民の授業アイデア・中学校

新旧の地図で見つける わたしたちの町の「問い」

地理と歴史の両方の目で町の変化を読み、地域調査で確かめたい問いを生徒がつくります。

中2　1単位時間（50分）

地理的分野（地域調査の手法）・歴史的分野（身近な地域の歴史）・思考・判断・表現

次期学習指導要領とのつながり



分野横断の単元B「私たちと社会」（仮称）　地域を題材とした学習活動（地域調査を含む）　地域の諸課題を見通した学習課題

審議まとめは、中学校社会科に3分野をつなぐ分野横断の単元を設け、そのうち単元B「私たちと社会（仮称）」で、今は地理的分野と歴史的分野にそれぞれある地域を題材とした学習（地域調査を含む）を、地理・歴史の両面から一体的に扱う方向を

示しています（P151・P153）。その際、地域の諸課題やその解決を見通した学習課題を設定し、地域の人材を積極的に活用するとしています（P160）。また、資料から疑問を見つけたり問いを作ったりしている生徒が60%前後にとどまるという課題もあげられています（P145）。この授業は、新旧の地図を地理（土地利用の変化）と歴史（変化の背景）の両方の視点で読み、地域調査で確かめたい問いを生徒自身がつくる時間です。 P145 P151 P153 P160

ねらい

学校周辺の新旧の地図を比べて土地利用の変化を読み取り、その背景を歴史的に考えたうえで、地域の課題につながる調査の問いを立てることができる。

準備するもの

- 学校周辺の新旧の地形図または空中写真（国土地理院の地図・空中写真の閲覧サービスなどで、昭和期と現在の同じ範囲を用意し、学校に印を付ける）
- 市町村史や郷土資料館の資料から、町の変化に関わる出来事を先生が抜き出した年表（5〜6項目）
- 「変化発見シート」（変わったもの／変わらないもの／いつごろ・なぜ（予想）／確かめる方法）
- 付箋（2色）

手順

① **新旧の地図を大きく映し、「同じ場所なのに、何がいちばんちがう？」と問います。** 5分

② **班で新旧の地図を比べ、変わったもの（田畑が住宅地に、新しい道路や駅など）と変わらないもの（神社や寺、川筋、古い道など）を色分けした**

付箋に書いて地図に貼ります。 12分

3 年表を配り、変化が「いつごろ・なぜ」起きたのかを予想して変化発見シートに書きます。地理の視点（地形・交通・人口）と歴史の視点（時代の出来事・人々の暮らし）の両方から理由を出すよう声をかけます。 10分

4 班で、今の町の課題につながりそうな変化を1つ選び、「地域調査で確かめたい問い」をつくります（例：「田畑が住宅地に変わって、大雨への備えはどう変わったか」「古い道沿いの商店が減ったのはなぜか、これからどうなるか」）。問いには「だれに聞くか・何を見に行くか」も書き添えます。 13分

5 各班の問いを黒板に並べ、似ている問いをまとめて、単元を通して追究する学習課題の候補を全体で選びます。 7分

6 振り返りとして、「地理の目」と「歴史の目」で見たときに見えたものの違いを1文で書きます。 3分

評価（見取り）のポイント

【思考・判断・表現】土地利用の変化を地理的な視点と歴史的な視点の両方から説明し、地域の課題につながる問いを立てているかを、変化発見シートと問いで見取ります。【主体的に学習に取り組む態度】調査の方法（だれに聞くか、何を見るか）まで見通して問いを立てようとしているかを見ます。問いの質は、次時以降の調査を通して継続して見取ります。

© 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ（https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）｜授業アイデア：新旧の地図で見つける わたしたちの町の「問い」｜研修・校内での印刷・配布OK（連絡不要）

うまくいくコツ・アレンジ

- 新旧の地図は範囲と縮尺をそろえ、学校に印を付けると比べやすくなります。
- 地域の方に聞き取りをお願いするときは、先生が事前に目的やねらいを伝えて打ち合わせ、協力者の情報を校内で引き継げるよう記録しておきます。
- 問いが「〜はいつできたか」のような一問一答になったら、「それで町の暮らしはどう変わった？」と問い返します。

アレンジ

- 現地に行くのが難しいときは、郷土資料館や博物館のデジタルコンテンツ、地域の方へのオンラインでの聞き取りで調査します。
- 中3公民の導入で、この時の問いをもう一度取り上げ、地域の課題を解決する仕組み（地方自治）の学習につなげます。

ほかのアイデア

※ 次期学習指導要領は告示前です。審議まとめ（2026年10月5日）の方向性をふまえた原田英語.comのオリジナルのアイデアです。